

2024年度 キソガワフユスリカ対策事業報告書



(ガードレールに止まる多数のユスリカ)



キソガワフユスリカ
(体長 4～5mm)



コキシソガワフユスリカ
(体長 3.5mm程度)

2025年5月
一宮市 環境部環境保全課

監修 日本ユスリカ研究会 会員 近藤 繁生

目次

1	粘着トラップによるキシガワフユユスリカ発生状況調査	
(1)	調査概要	1
(2)	調査結果	3
2	定点観察によるキシガワフユユスリカ発生状況調査	
(1)	調査概要	5
(2)	調査結果	6
3	その他の調査.....	7
4	キシガワフユユスリカ防除対策	10
5	今後について.....	12

1 粘着トラップによるキソガワフユユスリカ発生状況調査

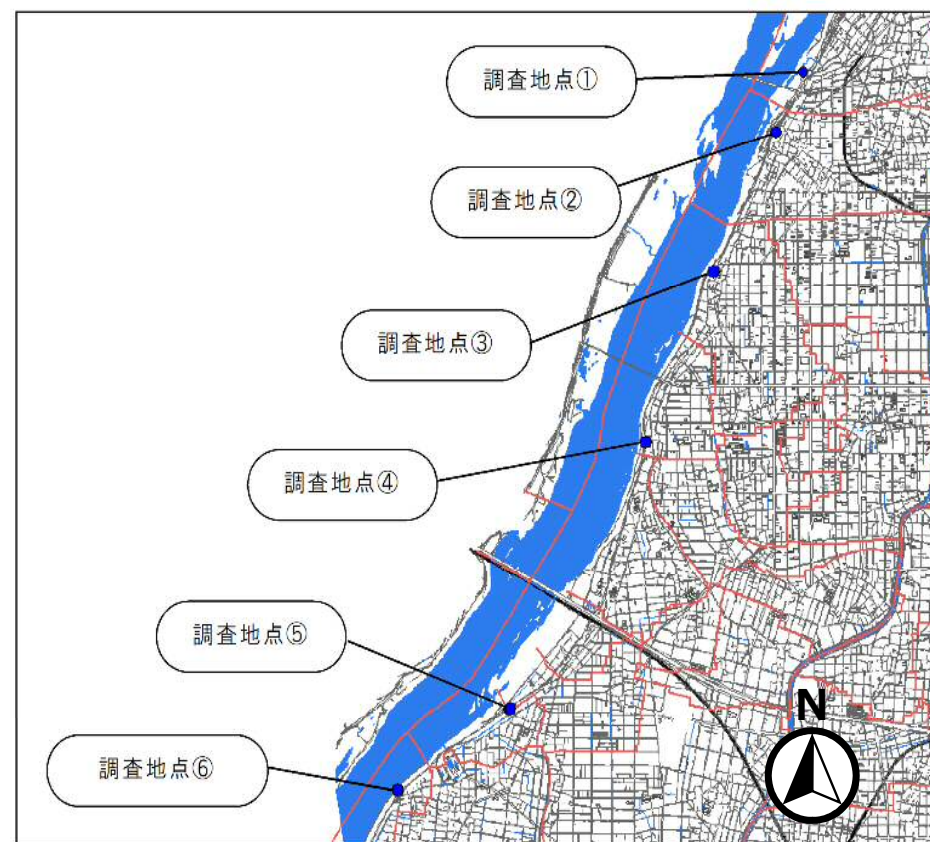
(1) 調査概要

○調査地点

- ・調査地点① 木曽川町玉ノ井（玉ノ井排水樋管付近）
- ・調査地点② 奥町（奥町水防倉庫付近）
- ・調査地点③ 小信中島（堤治神社付近）
- ・調査地点④ 起（尾西歴史民俗資料館付近）
- ・調査地点⑤ 祐久（富田山公園付近）
- ・調査地点⑥ 西中野（県営西中野渡船場付近）

○調査期間

2024年11月7日（木）～ 2025年4月24日（木）



キソガワフユユスリカ発生状況調査地点

○調査方法

- ・ 6か所の調査地点に粘着トラップを設置し、捕獲されているユスリカの個体数を毎週木曜日に調査
- ・ 捕獲した個体数の総数をカウント



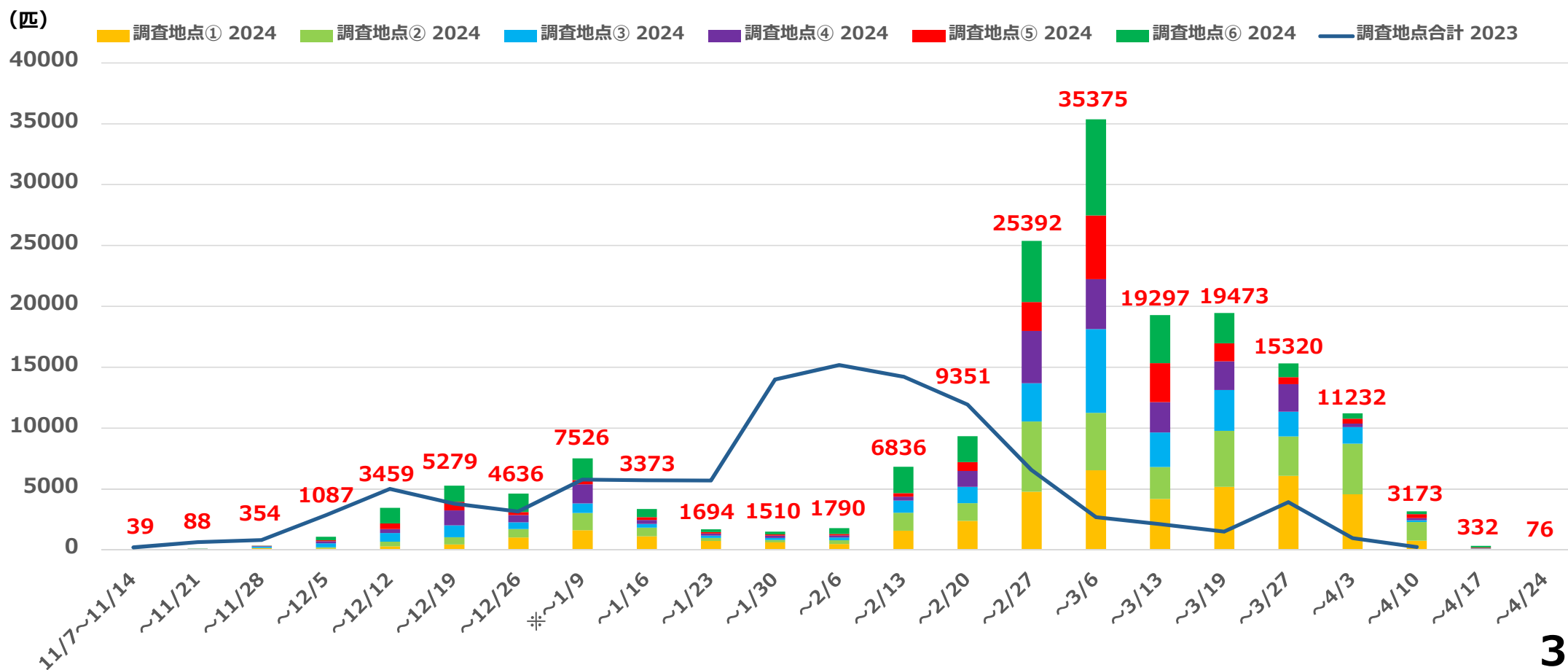
粘着トラップ



粘着トラップの外形
213mm×338mm

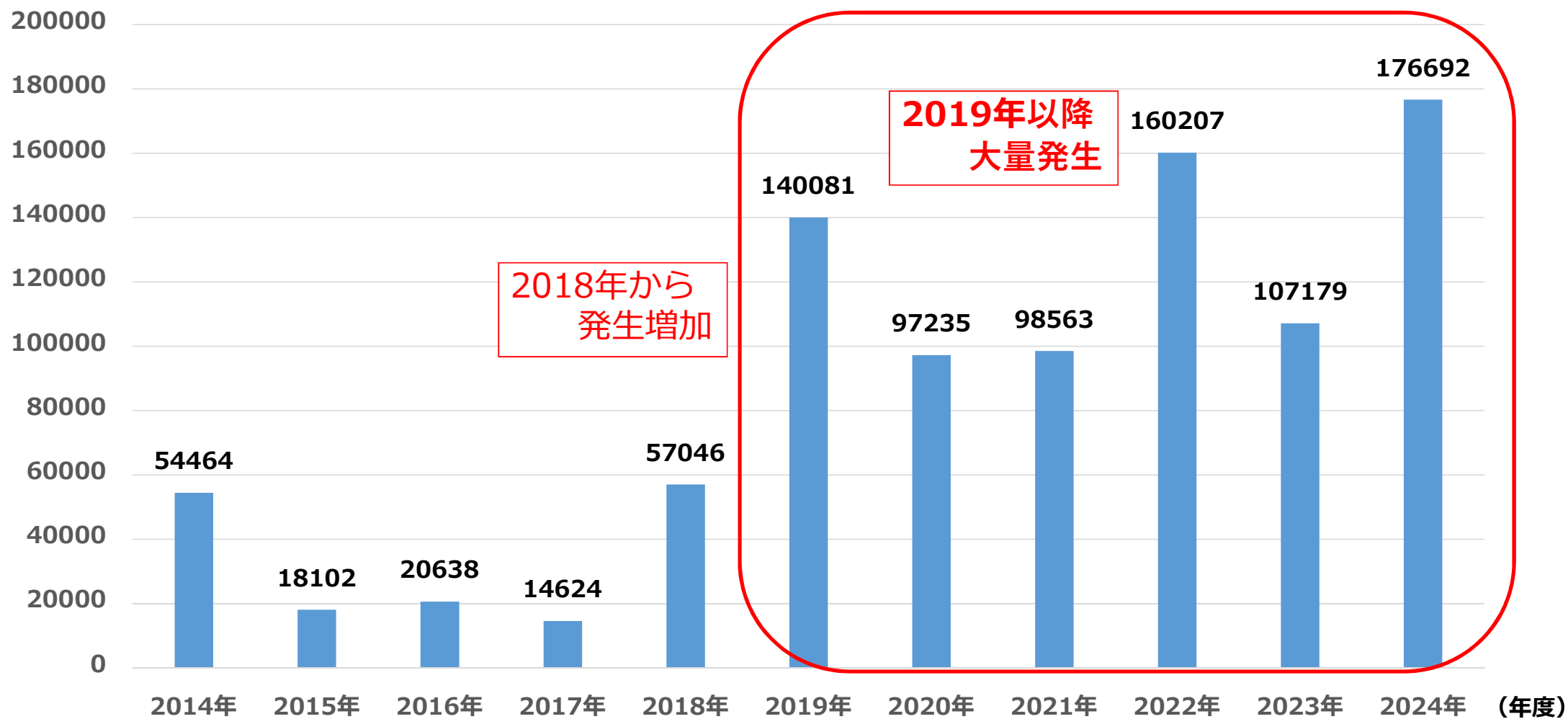
(2) 調査結果

- ・総捕獲数は、前年度より増加（2023年度：107,179匹、2024年度：176,692匹）
- ・捕獲数のピークは例年（2月上旬から下旬）より遅れたが、原因としては2月の非常に強い寒波の影響により、一時的にフユスリカ類の飛翔が抑制されたものと考えられる。



○調査開始年度からの粘着トラップによる捕獲状況

(匹)



2 定点観察によるキソガワフユユスリカ発生状況調査

(1) 調査概要

○調査方法

ガードレール4か所（1か所につき2地点）に設けた観察枠に止まっているユスリカの個体数を調査

○調査地点

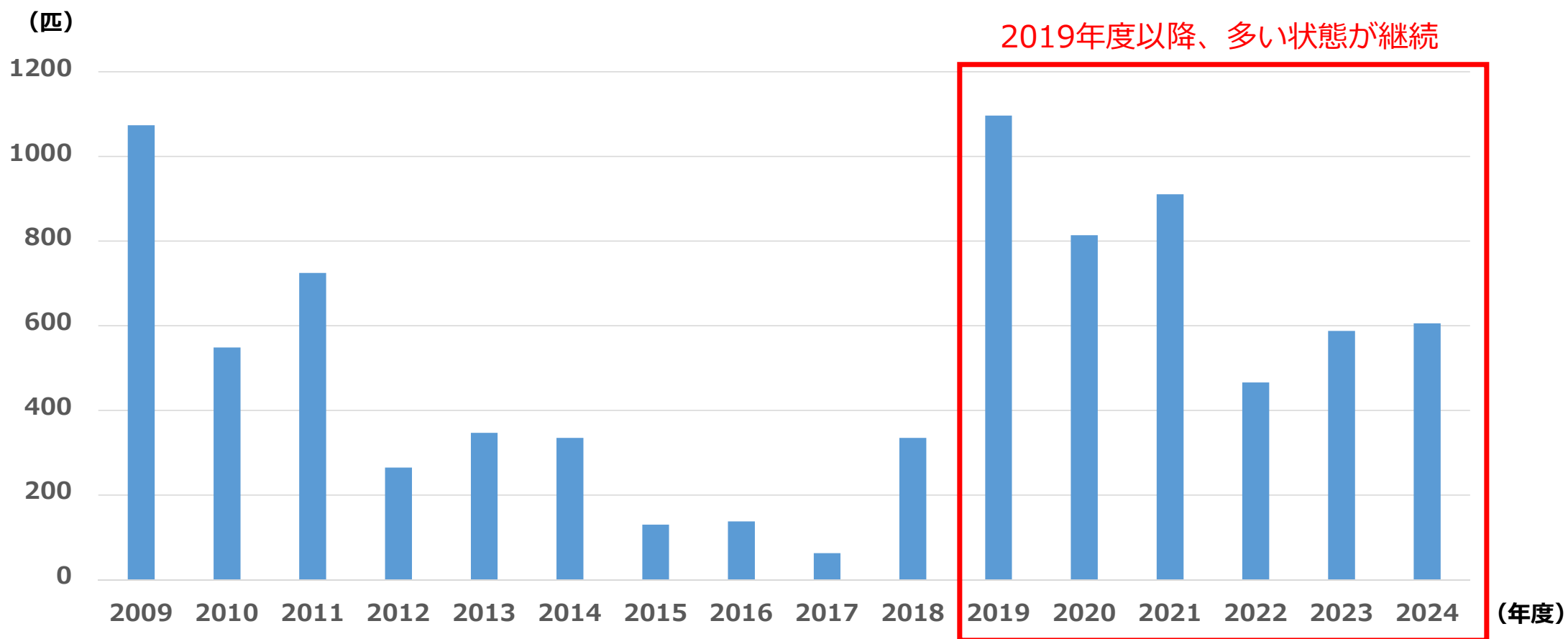
調査地点②～⑤の北西風が直接当たりにくい堤防道路の住居側ガードレール
（調査地点①、⑥は、付近にガードレールがないため、実施せず。）



ガードレールに設けた観察枠

(2) 調査結果

○4調査地点における年度別の個体数



3 その他の調査

○各調査地点におけるユスリカの飛翔状況

- ・調査地点①～⑥において、目視にて飛翔状況を確認
- ・11月14日から飛翔を確認し、12月から各地点で蚊柱を確認



調査地点⑥を飛翔するユスリカ（2月20日）

○打ち寄せられた蛹殻等と水温の状況

- ・ 補足調査地点（県営西中野渡船場）にて調査
- ・ 2月27日及び3月13日に多くの蛹殻を確認
- ・ 水温は、午前中に、岸辺水深10cm程度で、ペッテンコーヘル水温計で測定



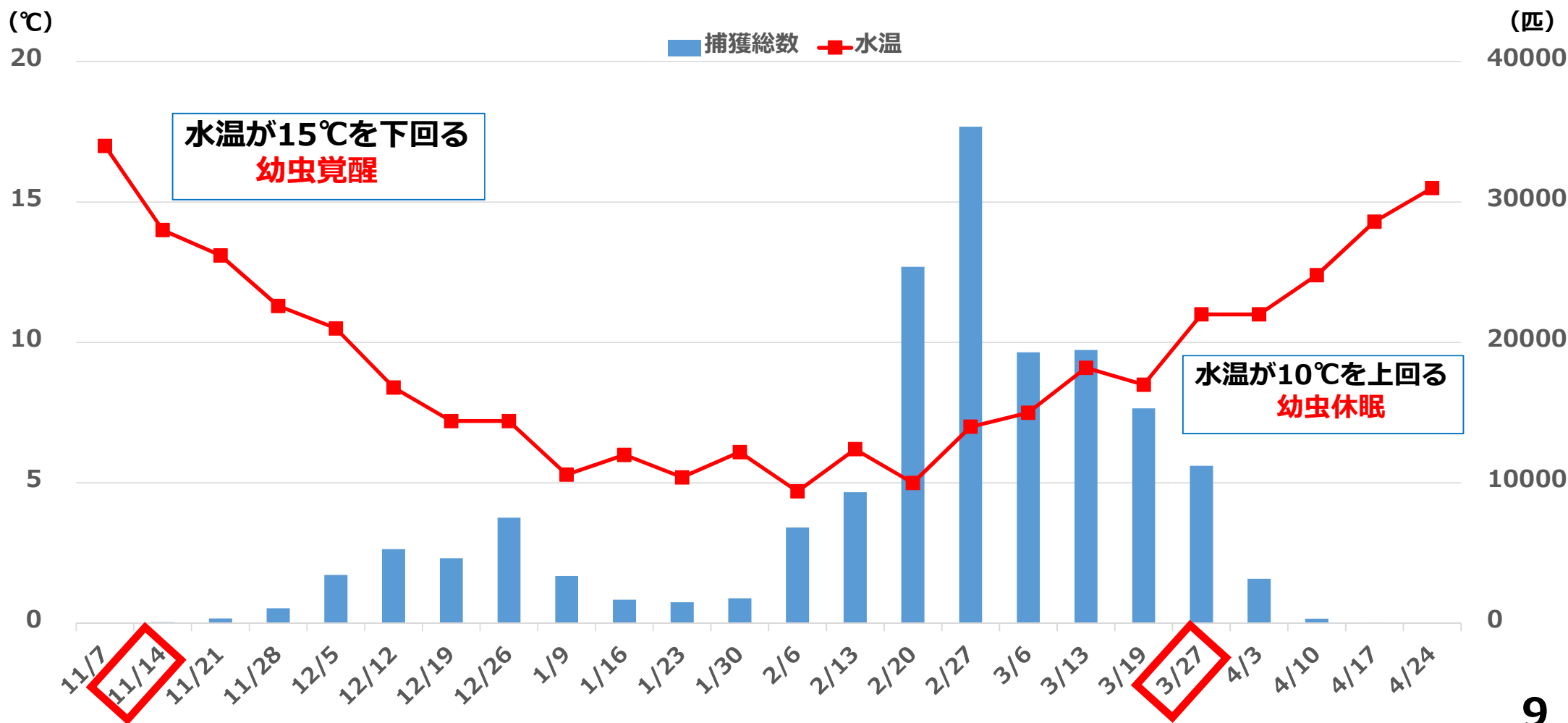
渡船場に打ち寄せられた蛹殻（3月13日）



ペッテンコーヘル水温計

○水温の状況

- ・フユスリカ類の**幼虫が休眠から覚醒する**水温である15℃を11月14日から下回り、**幼虫が休眠**する水温である10℃を3月27日から上回った。



4 キソガワフユユスリカ防除対策

機能性防虫ネットによる防除対策：（ネット繊維にピレスロイド系薬剤が含有）

○木曽川左岸堤防付近の公共施設等に設置

○木曽川沿川の希望町内会に配付

- ・ 配付先

- 朝日連区（1町内会）、大徳連区（3町内会）、小信中島連区（1町内会）、起連区（2町内会）

- ・ 配付日

- 2024年11月下旬から随時

○公共施設への設置状況

2024年12月5日（木）～2025年4月25日（金）

設置場所① 奥町字堤下一地内（木曽川緑地テニスコート）

設置場所② 富田字砂原地内（尾西グリーンプラザ西側柵）

設置場所③ 東加賀野井字川原地内（東加賀野井グラウンド西側フェンス）

設置場所④ 祐久字外浦地内（祐久グラウンド西側フェンス）

防虫ネット設置状況



設置場所①



設置場所②



設置場所③



設置場所④

5 今後について

フユユスリカ類の発生状況は、2019年度に大量発生して以来、依然として多い傾向が続いており、2024年度も調査地点付近の市民からの苦情が寄せられている。

ユスリカは広域的かつ大量に飛翔しており、捕獲による対策は極めて困難である。そのため、発生を抑制する方法や、場外地への飛来を防止する方法が対策として重要であると考え、引き続き研究していく必要がある。

一宮市としても、国土交通省、愛知県などと連携しながら調査を続け、より効果的な発生源対策を模索していきたい。